



もつと身近に！ 国際交流 国際協力

10月6日が「国際協力の日」ということをみなさんはご存知ですか？

外務省と国際協力事業団（JICA）が1987（昭和62）年に制定しました。1954（昭和29）年、国際協力の第二步として、途上国への技術協力のために国際協力組織「コロンボプラン」に加盟した日で、この日から1週間は国際協力週間となっています。

国際交流や国際協力は自分とは無縁だと思いませんか？もつと身近に出来ることはないでしょうか。

ホームステイを受入れてみませんか？

南部町では、毎年韓国からハンリム大学の学生を受け入れていきます。また、2年に1度アメリカからオハイオ州立大学の学生を受け入れていきます。

「言葉が通じないとコミュニケーションがとれなくて大変そう」「日本と風習が違ってとまどうことが多そう」という思いから、なかなかホームステイの受入れに踏み切れないという人もいるのではないのでしょうか。その心配はいりません。南部町が受け入れているのは、大

したと話して帰ります。学生たちは約1週間の間に茶道や陶芸などの日本文化を経験したり、とつとり花回廊や水木しげるロードなどの観光をしたり、様々な体験をしますが、感想文ではみな、そのことよりもホームステイがとてもいい経験になったと書き記しています。

今年初めてホストファミリーを引き受けたという遠藤優彦さん（三崎）。遠藤さんは、娘の直美さんの留学が国際交流をするきっかけとなりました。直美さんがオーストラリアに留学した際に、ホームステイさせてもらっていたそうです。直美さんがとてもお世話になったという思いから、自分もホストファミリーをすることで、国は違うけれども、その恩返しが出来ると申し込んだそうです。

また、妻の誉美子さんが韓流ドラマのファンということもあり、韓国の学生なら大丈夫だろうと申し込んでしまったそうですが、「それとこれとは話が違う」と誉美子さんは大反対。しかし、受入れの日が近付き、部屋の片付けや掃除を

していくうちに、どんどん楽しみなになっていったそうです。

遠藤さんは、特別なことはあまりしていないと言います。たとえば、朝はごはん、味噌汁、焼き魚など普段の日本人の生活を体験させてあげたそうです。でも、たくさんいい思い出を作ったと受け入れてくれたそうです。その気持ちが伝わったのでしょうか。遠藤さん宅にホームステイをした文愉琳さんは、少し体調を崩してしまったとき、遠藤さんに薬をもらったことにとっても感謝していて、今でもその薬を自分の部屋に飾っているそうです。

特別なことはしなくても、お互いを思いやる事が出来れば、十分に心が通じます。



遠藤誉美子さん、優彦さん